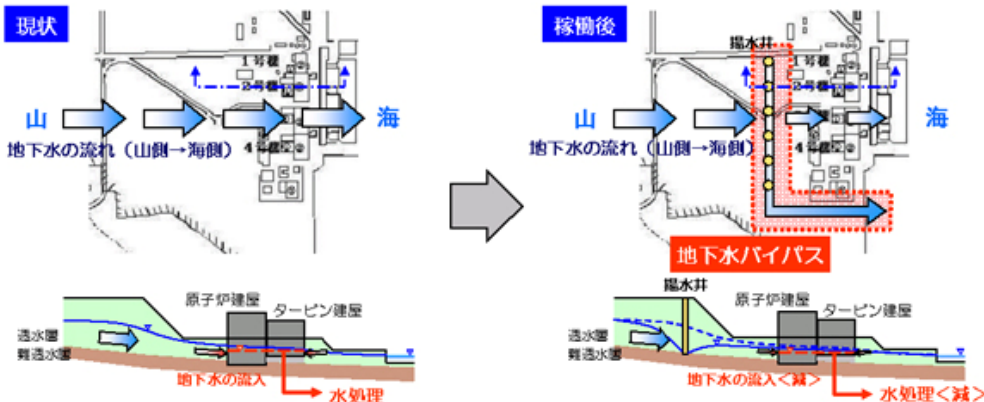


訂正版：④稼働後の水質確認方法に誤字がありましたので、訂正しております。(平成25年5月14日訂正)

地下水バイパスの進捗状況について

地下水バイパスは、山側から流れてきた地下水を、建屋の上流で揚水・バイパスすることで建屋内への地下水流入量を減らす取り組みです。最初のA系統の揚水井から汲み上げた地下水の水質確認、ならびにその水を貯蔵する一時貯留タンクの水質確認を実施しましたが、いずれも検出限界値未満または十分に低いことを確認しています。

①地下水バイパスのコンセプト



地下水は、山側から海側に向かって透水層内を流れており、その一部が建屋内に流入していますが、建屋内への流入量を少なくすることを目的に、建屋よりも上流で揚水して、**地下水の流路を変更します**

②地下水バイパスの施工進捗状況

- 実施中の主な作業 (4/23時点)
- ・揚水井設置完了 (12/12箇所)
- ・水質分析完了 (5/12箇所)
- ・配管等の移送設備の設置



③水質確認結果

当社と第三者機関で詳細に水質分析した結果、セシウム137については許容目安値<1ベクレル/リットル(周辺の河川と同レベル) >より十分に低い値、その他についても検出限界値未満(ND)又は法令値告示濃度よりも十分に低い値となっています

系統 地点名称 (掘水日)	A系統(当社調査)				A系統(第三者機関調査)				一時貯留タンク (Gr-A-1タンク)	法令値 告示濃度
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4		
セシウム-134	0.047	0.021	0.011	0.060	ND (<0.0074)	ND (<0.0087)	ND (<0.01)	0.015	ND (<0.042)	60
セシウム-137	0.074	0.033	0.012	0.12	ND (<0.0075)	ND (<0.0077)	ND (<0.01)	0.037	ND (<0.059)	90
ストロンチウム-89	ND (<0.079)	ND (<0.059)	ND (<0.236)	ND (<0.065)	ND (<0.013)	ND (<0.012)	-	ND (<0.012)		300
ストロンチウム-90	ND (<0.024)	ND (<0.021)	ND (0.068)	ND (<0.022)	ND (<0.005)	ND (<0.005)	ND (<0.005)	ND (<0.005)		30
トリチウム	9	15	10	39	2	3	ND (<3.7)	6	21	60,000
全アルファ	ND (<1.7)	ND (<1.7)	ND (<1.0)	ND (<1.7)	ND (<1.8)	ND (<1.8)	ND (<0.1)	ND (<1.8)	ND (<3.0)	-
全ベータ	ND (<2.7)	ND (<6.6)	ND (<2.7)	ND (<6.5)	ND (<4)	ND (<4)	ND (<0.2)	ND (<4)	ND (<6.3)	-

ND:検出限界値未満

④稼働後の水質確認方法

放水の都度、代表核種のセシウム-137、全ベータでモニタリングを行い、その結果をホームページ等で適宜公開いたします

地下水バイパス稼働後の水質確認		
目的	日々の放水可否の判断	定期的な詳細分析による濃度変動の監視
頻度	放水の都度(事前測定)	当面は1回/1ヶ月程度で実施 (状況により1回/3ヶ月程度へ移行)
場所	一時貯留タンク	一時貯留タンク
確認事項	・セシウム-137が許容目安値(1ベクレル/リットル)以下 ・全ベータが検出限界値(20ベクレル/リットル)未満であること	・周辺の海域や河川で検出された放射能濃度(セシウム-137を代表目安核種とする)に比べて十分に低いこと ・当社ならびに第三者機関による詳細分析
分析項目	セシウム-137 全ベータ	セシウム-137 ストロンチウム-90 トリチウム 全アルファ 全ベータ